



# 天文ニュース(No.174)

2002年のおもな天体現象 2001年12月22日発行

## 【1月】

### <星の観測の絶好期>

1日に木星が、「衝」といって太陽と正反対の方向に来るために、日の入り時に東から昇り、日の出時に西に沈むので一晩中見える。  
位置は、ふたご座。光度は - 3等星。7月まで夕方の空に見える。

### <土星食>

25日に、土星(0等星)が月(月齢11)にかくされる土星食が、中部地方から南の地方で見える。明石では、25日午前1時54分に月の東側の暗い縁にかくれ、午前2時25分に西側の明るい縁から出てくるようすが見える。  
望遠鏡で見ると、土星の環が月にかくれていくようすが見える。

### <月と木星が並ぶ>

27日の早朝、月(月齢13)と木星(- 3等星)が西空で並んで見える。  
この日、木星が月にかくれるようすが、東北地方(仙台では、05時08分潜入)から北で見える。出現は、月の入り後で見ることができない。

### <H-IIAロケット2号機の打上げ>

31日に宇宙開発事業団は、H-IIAロケット試験機2号機の打上げを予定している。  
このロケットには、宇宙放射線などの環境計測を行う人工衛星(MDS- 1)と将来の月や惑星からのサンプルリターンを行うための高速再突入実験機(DASH)を搭載の予定。

## 【3月】

### <月と土星が並ぶ>

20日の夕方、土星(0等星)が月(月齢6)と並んで見える。  
関東地方(東京では、19時46分潜入、20時04分出現)から北では、土星が月にかくされるようすが見える。

## 【5月】

### <水星、金星、火星、木星、土星が夕空で並ぶ>

上旬の夕方、肉眼で見える5つの惑星が、西空のおうし座プレアデス星団付近に集まって見える。  
4日には、水星(0等星)が東方最大離角といって、太陽から最も東に離れて、この前後1週間が観望の好期。  
5日には、火星(2等星)と土星(0等星)。8日には、金星(- 4等星)と土星。

11日には、金星と火星がそれぞれ並び、これらの星から少し離れたところ(約25°)に木星(-2等星)が見える。15日には、月(月齢3)も加わり美しい眺めになる。

## 【6月】

### <部分日食>

11日に、部分日食が日本全国で見える。  
明石では、欠けはじめが午前6時42分、欠け終わりが午前8時36分。最大食分は、午前7時36分で、太陽の直径の41%が欠ける。

## 【8月】

### <ペルセウス座流星群>

12～13日にペルセウス座を中心に流星が見られる。1時間に50個ぐらい。今年は月明かりがないので観測条件はよい。

### 金星が夕空で最大離角

また、9月26日には、夕方の西空で最大光度 - 4.6等星で見える。このころ、昼間でも観望できる。その後、10月中旬頃まで夕方の空に見える。

## 【9月】

### <中秋の名月>

21日が中秋の名月。明石での月の出は、18時11分。

## 【11月】

### <しし座流星群>

17～19日にしし座流星群が活動すると予想されている。今年は、月明かりがあるため観測条件はよくない。

### <野口聡一宇宙飛行士がスペースシャトルで宇宙へ>

アメリカのスペースシャトルで宇宙開発事業団の野口聡一さんがミッションスペシャリストとして宇宙へ飛び立つ。

## 【12月】

### <皆既日食>

4日にアフリカ中部及び南部、オーストラリアなどで皆既日食が見える。日本では見えない。

### <火星食>

30日の昼間に、火星(2等星)が月(月齢26)にかくされる火星食が日本全国(九州以南を除く)で見える。  
明石では、30日午前10時42分に月の東側の明るい縁にかくれ、午前11時16分に西側の暗い縁か

ら出てくるようすが見える。観望には、望遠鏡が必要。